

ことわざ

まなびん



災難や危機が次々と襲ってくること。
また一難
 一難去って

その道に精通するプロであっても、時には失敗をしてみることがあるという例え。
猿も木から
 落ちる

ごく僅かなものであっても、数多く積み重ねれば、高天なものになるというこの例え。小手を腕かにするなど、世の習性を込めても使う。
塵も積もれば
 山となる

縁や無(かなえ)のような大きな器物は早く作り上げることができない。同時に、真の大人物は、榮譽は遅いけれども時間を懸けて実力を磨き上げて、後に大成するということ。
大器晩成

大きいものは小さいもの代わりとして使ったことができることを指す。
大は小を
 兼ねる

どんぐりはどれでもずんぐりわづり、形で大きさを測いもなく背を比べても、優秀がつきにくいことから、平凡なものばかりで、優れたものが目立たないことの例え。つまり、素晴らしい者同士が優劣を競い合っていないこと。
どんぐりの背比べ

出過ぎた振る舞いをする者は、人から責められ制裁を受ける。
出る杭は
 打たれる

1000回聞くなり、1回見る方が、良く分かる。何度繰り返しても、一度実際に見ることに及ばない。
百聞は一見に如かず

ある人の言動や文脈などの前後が食い違っていて揃わないこと。辻褄が合わないこと。
矛盾

いつも笑い声が溢れ、和気藹々とした家には、自然と幸福が巡ってくるものである。
笑う門には
 福来たる